

大学院「入院」生のための論文の書き方・研究方法論等の私的推薦図書(2012年度版, ver.14)

二木 立（日本福祉大学副学長（研究・連携担当））

※ 医療・福祉マネジメント研究科の4月13日の「統一導入講義」で用いるので、必ず持参すること。
その時、下記『研究計画書の考え方』も持参のこと（第2～5部を事前学習するのが望ましい）。
本講義への他研究科の院生の聴講も歓迎します。

「文科系」向きの概説書・入門書・教養書を示したが、専門書・研究書も一部掲載した（計200冊）。
テーマごとに、原則として、発行年が新しい順に示したが、複数のテーマにまたがる本も少なくない
（特に、文章の書き方と論文の書き方、論文の書き方と研究方法論）。原著と文庫本があるものは、
入手しやすさを考慮して、確認できた限り、文庫本を示した（カッコ内に原著記載）。
書名のゴチックは私のお薦め本。…以下は私のコメント、ゴチックは特に重要なポイント。
●は2011年度版（ver.13）への追加8冊（うち新版への更新1冊）。他に削除6冊。
昨年度版から、最後に、付録として「研究についての名言クイズ」（22問。2012年度版, ver.5）。

注意・警告：

文章・論文の書き方や調査法には「基本的ルール」があるが、読書法や研究法は研究者や分野によりかなり違うので、自分のフィーリングにあう本を選んで読み、「自分のスタイル」を身につけること。ただし、この種の本は各分野1～2冊読めば十分、沢山読み過ぎないこと。それよりも、自己の研究テーマ関連の優れた本・論文を精読し、論文の書き方や研究方法を「盗む」のが一石二鳥。

0. 超必読書

妹尾堅一郎『研究計画書の考え方—大学院を目指す人のために』ダイヤモンド社,1999.

…本書は単なる大学院受験参考書ではない！入学後も「修論計画書」を推敲するための指針書。

「入試前より『入院』後に読まれ…数校の先生も『入院後の治療』向けで推薦した」（著者より）。

12年前の出版だが、現在でも、これを超える本はない（ただし、第1部は古い）。

1. 文章・論文の書き方(45冊)

<文章の書き方の入門書・基本図書(学部レベル。文章の書き方に自信のない院生も読むこと)>

酒井俊樹『100ページの文章術』共立出版,2011. …「読者に分かって貰うための文章」を書く術を明快に説明。特に、第3章「文章全体としてわかりやすくする〔7つの〕術」は有用。例文も豊富。

野内良三『日本語作文術—伝わる文章を書くために』中公新書,2010. …文章の「型」を重視した実用文の書き方：文の長さは上限50～60字、段落は200字以内に1つ、「使える」定型表現の集大成等。

飯間弘明『伝わる文章の書き方教室—書き換えトレーニング10講』ちくまプリマー新書,2011. …伝わる文章の3条件（語彙力、表現力、論理力）を伸ばすための、ゲーム感覚で行えるトレーニング。

阿部紘久『文章力の基本—簡単だけど、だれも教えてくれない77のテクニック』日本実業出版社,2009.

…「良い文章＝明快な文章」。77のテクニックごとに、例文と添削例を示し、やさしく解説。

石黒圭『文章は接続詞で決まる』光文社新書,2008. …接続詞に特化した、初めての文章を書くための本。読みやすい文章の全体構造を支える接続詞使用の勘どころを、豊富な例文を用いて解説。

立濃和男『文章のみがき方』岩波新書,2007. …「いい文章」を書くための38の心がけを、多くの名言を紹介しながら簡潔に解説。「Ⅲ. 推敲する」は研究論文を書く上でも有効。

樋口裕一『できる人の書き方－嫌われる人の悪文』ビジネス社,2005. …ビジネスマンに、文章を書く心構えとコツを伝授。**最長60文字の目安**、「語彙」ではなく「論理」、**人の文章を添削**等。

樋口裕一『ホンモノの文章力－自分を売り込む技術』集英社新書,2000. …文章とは自己演出だ。**自己推薦書の書き方**（第3章）は、就職活動時必読。

高橋昭男『大切なことは60字で書ける』新潮新書,2005. …情報やメッセージを短い文で分かりやすく書くための技術を伝授。第12講の「正確な言葉より適切な言葉」は秀逸。例文が豊富。

清水義範『大人のための文章教室』講談社現代新書,2004. …一般の大人のために文章をうまく書くためのコツや裏技を指南。第7講近寄ってはいけない文章（学者の論文が筆頭！）は痛い！

藤沢晃治『「分かりやすい文章」の技術－読み手を説得する18のテクニック』講談社ブルーバックス,2004. …分かりにくい文とその改善法の実例が豊富。**要点を先に書く**ことが最重要。

山田ズーニー『伝わる・揺さぶる！文章を書く』PHP新書,2001. …小論文指導のプロが、「書くことは考えること」の視点から考えるための方法を提案。

宮部修『文章をダメにする3つの条件』丸善ライブラリー,2000.…ダメな文章とは、①事実や印象の羅列、②理屈攻め、③一般論。豊富な実例を用いて、文章の基本の基本を丁寧に説明。

<文章の書き方の中・上級書(学部高学年～大学院レベル)>

本多勝一『わかりやすい日本語の作文技術 [大活字版]』オークラ出版,2003. …定評ある超厳密な指南書＝『日本語の作文技術』（朝日文庫,1982）の改訂版。句読点の打ち方の章は秀逸。

林望『文章の千本ノック－どうすれば品格のある日本語が書けるか』小学館,2002. …品格のある「**エッセイ**」（論理的な文章）を書くための「特別授業」。実際の添削事例と概評つき。

古郡廷治『文章添削トレーニング－8つの原則』ちくま新書,1999.…文章の書き方の原則を丁寧に解説。ポイントは**短い文を書く（1文は80～100字を超えない）**。例文が豊富。

宇佐見寛『作文の論理－「わかる文章」の仕組み』東信堂,1998. …看護界の重鎮（南裕子日本看護協会会長等）の「悪文」を徹底的に批判・添削。看護系院生必読。ただし、超シツコイ。

清水幾太郎『論文の書き方』岩波新書,1959. …この分野の超古典。「が」を使うなは、今でも新鮮。

<論文の書き方の基本図書(学部レベル。論文の書き方に自信のない院生は1冊以上必読)>

安藤喜久雄編『わかりやすい論文レポートの書き方 [2版]』実業之日本社,2002. …長年の大学生指導の経験をまとめた、痒いところに手の届く卒論・ゼミ論の書き方。

樋口裕一『やさしい文章術－レポート・論文の書き方』中公新書ラクレ,2002. …よい意味で「マニュアル」に徹している。鍵は、「小論文の延長線上で書く」。

古郡廷治『論文・レポートのまとめ方』ちくま新書,1997. …論文の書き方を基本から徹底指導。

木下是雄『レポートの組み立て方』ちくま学芸文庫,1994（筑摩書房,1990).…『理科系の作文技術』（後述）の文科系版。レポートに書くべきは、事実とその根拠を示した意見だけ等、明快・簡潔なレポートのコツを説く。

<論文の書き方の中・上級書(学部高学年～大学院レベル)>

アメリカ心理学会著、前田樹海・他訳『APA論文作成マニュアル [第2版]』医学書院,2011. ●…

学術論文の書き方の事実上の国際標準。超上級書だが、英語の学術論文を書く院生や教員は必読。
 川崎剛『社会科学系のための「優秀論文」作成術—プロの学術論文から卒論まで』勁草書房, 2010. …
 社会科学系査読論文の「型」と学術雑誌攻略法を丁寧に解説した上級書。博士課程院生必読。
 小笠原喜康『新版 大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書, 2009. …**わかりやすい文章にする「唯一の原則」は「一文を短くする」こと（30～40字）**。文献の引用法と検索技術が詳しい。
 小笠原喜康『インターネット完全活用編大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書, 2003. …
 「インターネットだけを使ってレポートや論文をどこまで書けるかに挑戦」。通信課程院生必読。
 泉忠司『論文&レポートの書き方』青春出版社, 2009. …論文は「論理性」が命：「問い」の立て方、
 暫定的文献リストの作成方法、論文の型は常に三拍子、パラグラフ・ライティングの理論と実際等。
 細川英雄『論文作成デザイナー—テーマの発見から研究の構築へ』東京書籍, 2008. …「論文は対話活
 動」との立場から、執筆プロセス（テーマの発見～証拠の提示～主張～推敲）を詳述。やや思弁的。
 細川英雄『研究計画書デザイナー—大学院入試から修士論文完成まで』東京図書, 2006. …技術論よりも
 「考えるための方法論」を重視：データ／先行研究／他者との議論の「インターアクション」等。
 石原千秋『大学生の論文執筆法』ちくま新書, 2006. …大学生ではなく、院生・若手研究者向け。第一
 部「秘伝 人生論的論文執筆法」はユニーク&真っ当。有力研究者等のアイマイ表現を実名で批判。
 酒井聡樹『これから論文を書く若者のために [大改訂増補版]』共立出版, 2006. …（理系）学術論文
 の各章で書くべきことを具体例を示しながら説明。**学術雑誌に投稿後の各段階での対処法**を詳述。
 斉藤孝・西岡達裕『学術論文の技法 新訂版』日本エディタースクール, 2005. …定評ある手引書（19
 77, 1988, 1998）の最新版。論文の注の書き方が詳しい（第5章）。
 鹿島茂『勝つための論文の書き方』文春新書, 2003. …ハウツー本的书名だが、内容は高度。文献研究
 予定者は必読。「良い」だけでなく「面白い」論文を書くための「問題の立て方」等を講義。
 桜井雅夫『レポート・論文の書き方上級（改訂版）』慶応義塾大学出版会, 2003. …文献の引用方法の
 紹介は「他に類を見ない」ほど詳細、実例も豊富。
 戸田山和久『論文の教室—レポートから卒論まで』NHKブックス, 2002. …卒論・修論を書くための
 35の「鉄則」を、読みやすく物語風に示す。アウトラインの作り方と論証の仕方が詳しい。
野口悠紀雄『「超」文章法—伝えたいことをどう書くか』中公新書, 2002. …「論述文の成功はメッセージが」
『ためになり、面白い』かどうかで決まる。良い意味で即物的で修論のチェックリストにもなる。
伊丹敬之『創造的論文の書き方』有斐閣, 2001. …プロの論文を書くための研究のプロセスと心構え。テ
ーマの決め方と仮説の育て方、付録が特に秀逸。上級書で、教員にも有用。
 山内史朗『ぎりぎり合格への論文マニュアル』平凡社新書, 2001. …内容は高度&偏執的。
 西山昭彦『知的仕事人のための論文の書き方』東洋経済, 1999. …社会人大学院での研究論文の書き方
 のノウハウを、実体験に基づいて紹介。
木下是雄『理科系の作文技術』中公新書, 1981. …文章の組み立て方、パラグラフの意味、はっきり言いき
る姿勢、事実と意見の区別等、実証研究論文の最良の指導書。文科系の実証研究予定者も必読。
<日本語の特性を理解しセンスを磨くための教養書>
 斎藤美奈子『文章読本さん江』筑摩書房, 2002. …文章読本の構図と歴史、代表作の批判。
 高島俊男『漢字と日本人』文春新書, 2001. …日本語の特性・宿命に敏感になる。
 林望『日本語の磨き方』PHP新書, 2000. …「ことばについての矜持と客観的意識」を持とう。
 大野晋『日本語練習帳』岩波新書, 1999. …日本語のセンスを磨くために。
 三上章『象は鼻が長い』くろしお出版, 1960. …元祖「日本語に主語はない」。ハとガは違うは新鮮。

2. 読書法(関連) (20冊) …研究・情報収集のための読書用 (趣味の読書は除く)

日垣隆『つながる読書』講談社現代新書, 2011. ●…「発信することを前提に読む」「ソーシャル・リーディング」のノウハウ。第3章「書いて深める読書術」は正統的、第4章に読書会のノウハウ。

鹿田尚樹『10分間リーディングー速読しないで1冊読める!』ダイヤモンド社, 2010. …「本は大事なところだけ読む」。毎朝、1冊10分間リーディング+20分間読書記録を日課にする技法を紹介。

松岡正剛『多読術』ちくまプリマー新書, 2009. …「読書することは編集すること」という視点から、読前・読中・読後別に、松岡氏の方法を開陳。ポイントは「自分に合った読書スタイル」の確立。

高田明典『難解な本を読む技術』光文社新書, 2009. …難解な思想書の「同化読み」の技術を、選書の仕方から、「読書ノート」のとり方、「読まない読書」まで丁寧に説明。理論研究希望者向き。

奥野宣之『読書は1冊のノートにまとめなさい』ナ・コポレト・コミュニケーション, 2008. …読みっぱなしを止め、1冊のノートで、5段階の読書プロセス(探す・買う・読む・記録・活用)をマネジメント。

東郷雄二『打たれ強くなるための読書術』ちくま新著, 2008. …「ホネのある本」を読み、「知的に打たれ強くなる」＝「正解のない世界に耐える」ための手引き書。理論・文献研究予定者向き。

樋口裕一『差がつく読書』角川Oneテーマ21, 2007. …第1部実読の方法は院生必読。「発信」のための効率よい「多読と精読の併用」技法を初歩から解説。特に5種類の多読テクニックは有用。

本田直之『レバレッジ・リーディング』東洋経済, 2006. …著者がアメリカのビジネス・スクールで身につけた効率的・戦略的多読法を伝授。修士論文を書くためにも多読法は不可欠。

池上彰『池上彰の新聞勉強術』ダイヤモンド社, 2006. …NHK「週刊 子供ニュース」の元名キャスターが書いた「メディア・リテラシー」を身につけるための本。日本経済新聞の問題点も指摘。

北村肇『新聞記事が「わかる」技術』講談社現代新書, 2003. …硬派記者による、新聞をていねいに読んで「情報の達人」になる方法。直感を養うには「情報の蓄積」が必要。

小谷野敦『バカのための読書術』ちくま新書, 2001. …「旧教養主義」の本、正論&劇薬。

井上ひさし『本の運命』文春文庫, 2000. …**井上流本の読み方10箇条**(第3章)は必読。

丸谷オー『思考のレッスン』文芸春秋, 1999. …柔軟な思考・読書・文章術のヒント満載。

中谷彰宏『大人のスピード勉強法ー時間がない人の66の具体例』ダイヤモンド社, 1999.

斉藤英治『カンタンスラスラべんり速読術』日本実業出版社, 1998.

日下公人『「逆」読書法ー読まなくていい本を、読まずにすませる方法』ごま書房, 1997.

…上記3冊はビジネスマン向き実用書だが、効率的な読書・勉強のテクニックが豊富。

M・J・アドラー、C・V・ドーレン『本を読む本』講談社学術文庫, 1997. …もともと体系的な読書の技法書。読書には4レベルあり、中心は「分析読書」。文献研究予定者は必読。

立花隆『ぼくはこんな本を読んできた』文芸春秋, 1995. …**「実践に役立つ14カ条」**(73~75頁)。

呉智英『読書家の新技術』朝日文庫, 1987. …第二部技術篇、特に「書評読みのテクニック」は有用。

内田義彦『読書と社会科学』岩波新書, 1985. …「自前の概念装置」を獲得するための、社会科学の古典の精読の「心得」。**「確信にあぐらをかくな」**。歴史・理論研究予定者は必読。

3. 勉強法・研究方法論(論理的思考法、情報収集・整理の技法、知的生産の技術等) (45冊)

堀正岳『理系のためのクラウド知的生産術ーメール処理から論文執筆まで』講談社ブルーバックス, 2012. ●…Gメール等を駆使して情報洪水を乗り越え「コツ」を詳述。パソコン上級者向け。

齊藤孝『偉人たちのブレイクスルー勉強術ードラッカーから村上春樹まで』文芸春秋, 2010. ●…大人

の勉強のポイントは「自分にあったペース」と「自分の好きな方法」。そのためのヒントを紹介。池上彰『＜わかりやすさ＞の勉強法』講談社現代新書, 2010. …「わかりやすさを考える」3部作最終巻。プレゼン力の伸ばし方、新聞・本の読み方、細切れ時間の利用法等、池上流勉強法を紹介。

東郷雄二『新版 文科系必修研究生活術』ちくま学芸文庫, 2009. (夏目書房, 2000) …「スキルとしての学問」のノウハウを惜しみなく公開。先行研究の批判検討(第7章)は秀逸。主に昼間部院生向き。

奥野宣之『情報は「整理」しないで捨てなさい』PHP, 2010. …情報に幅広く触れつつ、取捨選択を瞬時に行う4段階の「情報の入口戦略」とテクニックを詳述。鍵は「情報に序列を付ける」。

奥野宣之『情報は1冊のノートにまとめなさい』ナ・コポレイト・コミュニケーション, 2008. …A6判ノートを常に持ち歩き、すべての情報を時系列で書き一元的に管理する技法。索引を作成し、パソコンと連動。

石原武政『「論理的」思考のすすめー感覚に導かれる論理』有斐閣, 2007. …理論・論理との付き合い方についての著者の試行錯誤を正直に語る。鍵は「感覚の論理化」。博士課程院生向き。

中西輝政『本質を見抜く「考え方」』サンマーク出版, 2007. …「自分の頭で考え」、「ものごとの本質を見抜くための考え方」のヒントを、著者自身の経験や実例を示しながら分かりやすく示す。

鎌田浩毅『ラクして成果が上がる理系的仕事術』PHP新書, 2006. …理系＝「アウトプット優先主義」と「主知主義」の立場から、著者と先人の開発した知的生産の技術の理念と技法を紹介。

二本立『医療経済・政策学の視点と研究方法』勁草書房, 2006. …社会福祉学を含めて、広く社会科学を学ぶ人が、自分なりの研究視点と方法・技法を身につけるヒントを満載。

岩田正美・他編『社会福祉研究法ー現実世界に迫る14のレッスン』有斐閣, 2006. …社会福祉研究の独自性の探究。第3部は7つの研究事例を著者本人が研究方法の角度から解説しており、有用。

日垣隆『知的ストレッチ入門ーすいすい読める書けるアイデアが出る』大和書房, 2006. …21世紀版「知的生産の技術」への挑戦。3原則（インプットは必ずアウトプットを前提にする等）は重要。

内田和成『仮説思考ーBCG流問題発見・解決の発想法』東洋経済, 2006. …「情報が少ない段階から、常に問題の全体像や結論を考える」仮説思考は、ビジネスだけでなく研究でも不可欠。

三輪裕範『四〇歳からの勉強法』ちくま新書, 2005. …時間に追われるビジネスマンに、①時間の作り方、②読書の仕方、③新聞・雑誌の読み方、④英語の勉強の仕方を伝授。社会人院生向き。

千野信浩『図書館を使い倒す！ーネットではできない資料探しの「技」と「コツ」』新潮新書, 2005. …経済誌記者として身につけたノウハウと鉄則を開陳。「お薦め図書館ガイド」も充実。

井上真琴『図書館に訊け！』ちくま新書, 2004. …カリスマ図書館員が働きながら覚えた、学術研究のための図書館利用テクニックを伝授。キーワードは3つの「訊く」。

和田秀樹『＜疑う力＞の習慣術』PHP新書, 2004. …**問題発見能力＝疑う力。自分の価値判断基準も疑ってみる。**ただし、「疑いすぎる」と泥沼に入る。「非常識」ではなく「脱常識」。

和田秀樹『大人のためのスキマ時間勉強法』PHP, 2003. …10の基本原則は忙しい社会人院生向き。

宮内泰介『自分で調べる技術ー市民のための調査入門』岩波アクティブ新書, 2004. …行動派学者の情報収集・整理のノウハウ。フィールドワークと文献・資料調査を往復し、概念を作り出す。

松浦英輔『「挫折しない整理」の極意』新潮社新書, 2004. …主としてモノの整理法の入門書。整理法の2原則（見えることと動かしやすいこと）は妥当。

妹尾堅一郎『知的情報の読み方』水曜社, 2004. …下記『考える力をつける…』のポピュラー版。

妹尾堅一郎『考える力をつけるための「読む」技術ー情報の解説と解釈』ダイヤモンド社, 2002. …『研究計画書の考え方』の姉妹書。様々な媒体を用いて「情報の解説と解決」能力を身につける。

池上彰『池上彰の情報力』ダイヤモンド社, 2004. …NHKキャスターの体験的情報収集・処理術。

日垣隆『情報の「目利き」になる！—メディア・リテラシーを高めるQ&A』ちくま新書, 2002. …高名なジャーナストのノウハウや体験を開陳。日垣氏のファン向き。「仮説力」にこだわる。

岡本浩一『上達の法則—効率のよい努力を科学する』PHP新書, 2002. …(認知)心理学をベースにした「中級者から上級者になる」方法論と「特訓法」。

苅谷剛彦『知的複眼思考法』講談社+α文庫, 2002(講談社, 1996). …東大での教育に基づく、一步進んだ思考法。「批判的読書のコツ20のポイント」(第1章)、**問いの立て方**(第3章)は特に有用。

斎藤孝『「できる人」はどこがちがうのか』ちくま新書, 2001. …特定の領域の上達法ではなく、領域と領域の間を「またぎ越す」上達の普遍的論理=まねる力、段取り力、コメント力の3つの力。

東谷暁『困ったときの情報整理』文春新書, 2001. …気骨ある経済ジャーナリストの体験的・実践的知的生産の技術。第5章は優れた取材学。

福田和也『ひと月百冊読み、三百枚書く私の方法』PHP研究所, 2001. …多作で有名な著者のモーレツな知的生産術。ポイントは「**自分なりのスタイル**」。

橋本治『「わからない」という方法』集英社新書, 2001. …「わからないからやってみる」。

野口悠紀雄『「超」発想法』講談社, 2000. …発想の5原則は重要。KJ法を批判。

野口悠紀雄『「超」勉強法実践編』講談社, 1997.

野口悠紀雄『「超」勉強法』講談社, 1995. …第1章の**勉強の基本3原則(面白いことを勉強する、全体から理解する、基礎を8割理解したら応用に進む)**は妥当だが、第2章以下の各論は大秀才向き。

野口悠紀雄『「超」整理法3—とりあえず捨てる技術』中公新書, 1999. …副題の通り。

野口悠紀雄『続「超」整理法・時間編—タイムマネジメントの新技法』中公新書, 1995. …同上。

野口悠紀雄『「超」整理法—情報検索と発想の新システム』中公新書, 1993. …時間軸を用いた整理法は新鮮・有用。ただし、「適用限界」がある。

松岡正剛『知の編集工学』朝日文庫, 2001. …編集という窓からみた情報論~文化論。

西村晃『超図解奇跡の時間管理術』かんき出版, 1998. …ビジネスマン向け「15分革命」。

小川明『観察力をつける』日本経済新聞社, 1997.

立花隆『「知」のソフトウェア—情報のインプット&アウトプット』講談社現代新書, 1984. …準古典。

高根正昭『創造の方法学』講談社現代新書, 1979. …著者自身の米国での「普遍主義」的社会学研究体験に基づいて、具体的証拠に基づいて「理論と経験とをつなぐ」方法論を提唱。

梅棹忠夫『知的生産の技術』岩波新書, 1969. …この分野の「超」古典、今でも新鮮。

川喜田二郎『発想法—創造性開発のために』中公新書, 1967. …著者の案出した**KJ法**の原著。

徳田和嘉子『東大生が教える！超暗記術—基本から暗記のコツまで』ダイヤモンド社, 2006.

…「**暗記はすべての学問のもと**」。楽しく効率的で、しかも正統的な暗記の方法を公開。

南博『記憶術—心理学が発見した20のルール』カッパブックス, 1961. …40年以上重版の古典。特殊テクニックではなく、ルール1「**記憶できるのだという自信をもつこと**」等、基本に忠実。

4. プリゼンテーション・学会発表&ディベートの技法、会議司会の技術 (16冊)

<プリゼンテーション・学会発表の技法>

黒木登志夫『知的文章とプレゼンテーション—日本語の場合、英語の場合』中公新書, 2011. ●…日本語・英語共通の「知的三原則」は簡潔・明快・論理的。審査・評価の姿勢と文書の書き方は貴重。

齋藤裕之・他編『医療者のための伝わるプレゼンテーション』医学書院, 2010. ●…スライド・ポスターによる研究発表の心構えと技法を丁寧に解説。最も伝えたいことは「**ポイントを最小限に絞る**」。

池上彰『わかりやすく伝える技術』講談社現代新書,2009.…テレビの解説で身につけた技術を詳述。

まず「話の地図」を示す、図の矢印の使い方、「**三の魔術**」、**キーワード力**、**腹式呼吸**等。

酒井聡樹『これから学会発表する若者のために—ポスターと口頭のプレゼン技術』共立出版,2008.

…分かりやすい発表をするための心がけと技法を伝授。**パワーポイントでの学会発表予定者必読。**

R・R・H・アンホルト、鈴木炎・他訳『理系のための口頭発表術』講談社ブルーバックス,2008.…「論

理と思考に重点」を置いた口頭発表の手引き書。特に、**パワーポイント使用者は必読。**

吉田たかよし『話は最初の一言で決めなさい—長い話じゃ人は聞かない』中経出版,2004.…スピーチのプロ（元アナウンサー）の技術を分かりやすく伝える。一言で伝える「要約力」。

梶原しげる『口のきき方』新潮新書,2003.…社会人大学院に入学しカウンセラーにもなったアナウンサーの体験的「口のきき方」。核心は「よく聴く」技術&日本語の語感に鋭くなる。

高井伸夫『3分以内に話はまとめなさい—できる人と思われるために』かんき出版,2003.…簡潔で分かりやすい話し方の心構えとテクニック。批判する時の鍵は「建設的」。学会の発表・質疑にも有用。

土井哲・他『プロフェッショナル・プレゼンテーション』東洋経済,2003.…ビジュアルなプレゼンテーション資料の作り方と発表の仕方のポイントを網羅。

藤沢晃治『「分かりやすい説明」の技術』講談社ブルーバックス,2002.…ビジネスマン向けの実用書だが、学会発表の技術（基礎編）としても有用。

諏訪邦夫『発表の技法—計画の立て方からパソコン利用まで』講談社ブルーバックス,1996.…第2章発表のハードウェア（**日本語スライドは横15字縦8行以内等**）は、パワーポイント使用者必読。

＜ディベートの技法、会議司会の技術＞

福澤一吉『議論のレッスン』NHK出版（生活人新書）,2002.…10年間のゼミ指導に基づく、口頭&読み書きレベルでの「議論のルール」。根拠・論拠を示し、許される範囲の「飛躍」をする。

谷沢永一『論争必勝法』PHP研究所,2002.…本文はオタク的自慢話だが、巻末の「論争に必ず勝つ方法18章」は有用。特に、最後の「[坂本] **竜馬は議論しない**」（司馬遼太郎）は秀逸。

香西秀信『反論の技術—その意義と訓練方法』明治図書,1995.…意見を述べるとは反論すること。

高橋誠『会議の進め方 [第2版]』日本経済新聞社,2008.…会議を4種類（伝達・創造・調整・決定）に分類した上で、それぞれを効率性と創造性を合わせもった会議にするための技法を伝授。

内田政志『[入門] 会議の技術』大和出版,1996.…私はこれで学内諸会議の司会の技術を学んだ。

5. 研究・研究者の心構え（22冊）

坪田一男『理系のための研究生活ガイド—テーマの選び方から留学の手続きまで 第2版』講談社ブルーバックス,2010.…明るく楽しい研究生活のノウハウ。読むとやる気がおこり文系院生にも有益。

酒井邦嘉『科学者という仕事—独創性はどのように生まれるか』中公新書,2006.…「科学とは疑うこと」、「一に模倣、二に創造」、「論文こそすべて」等は、文系研究者にも必要な心構え。

渡邊美樹『夢に日付を！—夢実現の手帳術』あさ出版,2005.…ワタミ社長が20代から実践している夢を実現するための生き方：**「あらかじめ時間を設定するからこそ実現できる」**。

入江昭『歴史を学ぶということ』講談社現代新書,2005.…歴史を学ぶことには2つの意味がある：過去の事実の記録と解明された事実の意味づけ。歴史はすべての研究者・院生が学ぶ必要がある。

船曳建夫『大学のエスノグラフィティ』有斐閣,2005.…東京大学の文科系教員の発想・生態とゼミ風景をサラリと描く。「遊び、それは学問そのもの」、「生産力とは集中カプラス持続力」。

林周二『研究者という職業』東京図書,2004.…自称「二流人間」が、実践的研究を行うための知恵と工夫

を丁寧かつ正直に語る。「**自己能力の客観評価**」を行い、「**他人のやらない盲点をねらえ**」。

中西準子『環境リスク学—不安の海の羅針盤』日本評論社, 2004. …「事実派」の著者が「ファクトを超える」リスク学を確立するまでの自分史（I部）。QOL研究の予定者はII部必読。

日本科学者会議編『Guidebook 研究の方法』リベルタ出版, 2004. …研究の方法を「研究することの意義や意味にまで立ち返って議論」した、大学院生のためのガイドブック。

小森陽一監修『研究する意味』東京図書, 2003. …現実に批判的に介入し知の最前線で闘う研究とは？鍵言葉は好奇心・批判的スタンス・構想力・基礎的勉強。博士課程進学希望の院生必読。

宇野賀津子・板東昌子『理系の女の生き方ガイド—女性研究者に学ぶ自己実現法』講談社ブルーバックス, 2000. …文科系の女性院生も必読。第1～3章以外は男性院生にも有用。

高木仁三郎『市民科学者として生きる』岩波新書, 1999.…東大教授への道を捨て、反原発運動に生きた市民科学者の感動的自伝。末期癌による「死の予感のもとで」、明るく、確信と希望を語る。

西山卯三・早川和男『学問に情けあり—学者の社会的責任を問う』大月書店, 1996. …権力と時流に迎合しない学者の生き方。

寺田寅彦『科学者とあたま』寺田寅彦随筆集第4巻』岩波文庫, 1948, 202-207頁.…科学者（研究者）論の超古典。科学者は「**頭が悪いと同時に頭がよくなくてはならない**」（頭が悪い＝「鈍感力」）。

<将来大学教授をめざす院生へ>

櫻田大造『大学教員 採用・人事のカラクリ』中公新書ラクレ, 2011. ●…文科系大学教員になるための秘訣と「採る側の論理」を詳述し、教員志望院生必読。第5章「失敗ケースにも学ぶ就活術」。

鷺田小彌太『社会人から大学教授になる方法』PHP新書, 2006. …第1章で、実際に大学教授になった18の事例を紹介しつつ、「10の法則」を抽出。第2章以降は、大学教授・大学改革論に近い。

山本武信『大学教授になれる本の書き方』早稲田出版, 2003. …ハウツー本ではなく、「書くとは自分自身を生きること」と、単著を書く心構えを熱く語る。

川村雄介『サラリーマンのための大学教授入門』ダイヤモンド社, 2003. …第1章の大学教授に転身するまでの体験・努力と同じ道をめざす社会人へのアドバイスは有益。第2章以降は蛇足。

白石拓『サラリーマンから大学教授になる！方法』宝島新書, 2003. …「志」を持ってエリートサラリーマンから大学教員に転身した7人のインタビュー。大学とシンクタンクの違いもよく分かる。

萩原俊彦『実践編 働きながら大学教授になる方法』東洋経済, 2002. …社会人院生向き。

鷺田小弥太『新大学教授になる方法』ダイヤモンド社, 2001. …ベストセラーになった『大学教授になる方法』（後述）の全面改訂版。昼間部院生向き。

鷺田小弥太『大学教授になる方法—実践編』PHP文庫, 1995（青弓社, 1991）. …研究業績の作り方等具体的。

鷺田小弥太『大学教授になる方法』PHP文庫, 1995（青弓社, 1991）. …**偏差値50前後なら努力すれば教授になれる**。ただし、逆説・偽悪的表現が多い。

6. 社会調査の入門書・副読本（38冊）

<量的調査>（参考書・教科書は山ほどあるので、文科系院生向きの代表的教養書のみ示す）

警告：「嘘には3種類ある。ただの嘘と真っ赤な嘘と統計だ。」（『マーケットウェイン自伝』）

鈴木淳子『質問紙デザイン技法』ナカニシヤ出版, 2011. ●…質問紙法の体系的・実践的入門書。本調査実施前に予備調査を行う、質問作成では「誘導質問」に気をつける等。この調査予定者は必読。

アイリーン・マグネロ著、井口耕二訳『マンガ統計学入門—学びたい人のための最短コース』講談社

ブルーバックス, 2010. …統計学の歴史と各手法の全体像を、数式抜きで、ザックリと説明。
上田尚一『統計グラフのウラ・オモテ初歩から学ぶ、グラフの「読み書き」』講談社ブルーバック
ス, 2005. …良いグラフを書くための「統計的な考え方」を伝授。

森靖雄『新版やさしい調査のコツ』大月書店, 2005.…50年の経験に基づき、アンケート調査の技術と
ノウハウを丁寧に解説。「仮説主義」の呪縛も指摘。聞き取り調査と現地調査にも触れる。

赤川学『子どもが減って何が悪いか!』ちくま新書, 2004. …男女共同参画社会で少子化が防げるとの
主張の統計的根拠を徹底批判し、実証研究の結果を安易に政策提言に結びつけることを戒め。

川村孝『エビデンスをつくるー陥りやすい臨床研究のピットフォール』医学書院, 2003. …エビデンス
は「現場で、臨床家の努力によって産み出されるもの」。量的調査予定者必読。

中村好一『保健活動のための調査・研究ガイド』医学書院, 2002. …現場感覚で書かれた入門書。

谷岡一郎『「社会調査」のウソリサーチ・リテラシーのすすめ』文春新書, 2000.…際物的タイトルだが、中身
は正論。第1章「社会調査」はゴミがいっぱいを、修論への自戒とすること。

ダレル・ハフ『統計で嘘をつく方法ー数式を使わない統計学入門』講談社ブルーバックス, 1968. …30
年余も重版を続けている超ロングセラー。特に第10章統計のウソを見破る5つのカギは有用。

<質的調査(事例調査・フィールドワーク等)>

F・ローゼンツワイク『なぜビジネス書は間違ふのかーハロー効果という妄想』日経BP社, 2008. …
ビジネス領域に限らず、「ケーススタディ」予定者必読。「成功例だけを取り上げる」妄想等。

佐藤郁哉『質的データ分析法ー原理・方法・実践』新曜社, 2008. …質的研究によくみられる「薄い記
述」を「厚い記述」に変える方法や手がかりを、原理編と実践編に分け詳述。博士課程院生向き。

佐藤郁哉『フィールドワークー書を持って街へ出よう [増補版]』新曜社, 2006. …質的調査と量的調
査の「恥知らずの折衷主義」。「基本の基本」を紹介した入門書。各技法の詳細は書いていない。

佐藤郁哉『フィールドワークの技法ー問いを育てる、仮説を鍛える』新曜社, 2002. …フィールドワー
クの技法の詳細を実践的に紹介。「『仮の答え』としての仮説を練り上げる」ことを強調。

小泉潤二・志水宏吉編『実践的研究のすすめー人間科学のリアリティ』有斐閣, 2007. …第1部で、現
場と研究、実践と理論の関係についての考え方を整理し、第2部で実践的研究の諸方法を概説。

高橋都・他編『事例から学ぶはじめての質的研究法 医療・看護編』東京図書, 2007. …16人の執筆者に
よる自論文の概要説明、執筆プロセスの紹介と初学者への助言。特に看護系院生には有用。

鈴木淳子『調査的面接の技法 第2版』ナカニシヤ出版, 2005.…体系的かつ実践的な入門書(教科書)。

アリソン・モートン＝クーパー著、岡本玲子・他訳『ヘルスケアに活かすアクションリサーチ』医学
書院, 2005. …この分野のわが国初の単行本。現場での「小規模介入」研究予定者は必読。

好井裕明『「あたりまえ」を疑う社会学ー質的調査のセンス』光文社新書, 2006. …著者の経験と優れ
た著作の解釈を通して、「調査する精神」の真髄を語る。グラウンデッド・セオリーを批判。

河西宏祐『インタビュー調査への招待』世界思想社, 2005. …早大人間科学部で著者が行っているイン
タビュー調査教育のまとめ。全章、実際の調査に基づいて、ノウハウを伝授。

大泉溥『生活支援のレポートづくりー実践研究の方法としての実践記録』三学出版, 2004. …生活支援
活動を記録することの意味を問い、実践のセンスを磨く事例の読み方・書き方を詳述。

小田豊二『「書く」ための「聞く」技術』サンマーク出版, 2003. …聞き書きの名手が開発した、体験
的かつ体系的インタビューの技術。初級からプロのテクニックまで。

関満博『現場主義の知的生産法』ちくま新書, 2002.…「歩く経済学者」が「一生もの」として現場の人々
とじっくりつきあい調査し、書籍にまとめるノウハウを開陳。現場の「両極端に注目」。

御厨貴『オーラル・ヒストリー—現代史のための口述記録』中公新書, 2002. …第4章「オーラル・ヒストリー・メソッド」(特に実施の留意点)はインタビュー調査にも有効。

平山尚・他『ソーシャルワーク実践の評価方法—シングル・システム・デザインによる理論と技術』中央法規, 2002. …S S D (単一事例実験計画法)の基礎・原理と応用方法をていねいに解説。

根本博司・他編『初めて学ぶ人のための社会福祉調査法』中央法規, 2001. …社会援助活動関連の質的調査と量的調査の基礎を解説。 **第1部事例調査法は有用。**

小池和男『聞きとりの作法』東洋経済新報社, 2000. …事例調査&アンケート調査予定者必読。聞きとりの前の「仮説の設定」の大切さ。まず聞き取り調査を行ってから、アンケート調査を併用。

S・ヴォーン、他『グループインタビューの技法』慶応義塾大学出版会, 1999. …フォーカス・グループインタビューの概念と技法をていねいに解説。

<事例調査の参考になるルポルタージュ・ノンフィクション論> (いずれも読み物としても面白い)

佐野眞一『目と耳と足を鍛える技術—初心者からプロまで役立つノンフィクション入門』ちくまプリマー新書, 2008. …自著を例に、取材・構成・執筆の方法を詳述。最も大切なのはテーマの選択。

野村進『調べる技術・書く技術』講談社現代新書, 2008. …ノンフィクションの方法と作法を具体例を交え詳述。第1~4章はインタビュー調査予定者にも有用(特に**取材の依頼文と礼状の例文**)。

永江朗『インタビュー術!』講談社現代新書, 2002. …体験的「読み物としてのインタビュー術」。

佐野眞一『私の体験的ノンフィクション術』集英社新書, 2001. …体験的事例調査法としても有用。

鎌田慧『ルポルタージュを書く』岩波書店, 1992. …現実を読み解くルポの着想、取材、執筆の方法。

本多勝一『ルポルタージュの方法』朝日文庫, 1983. …自作の執筆過程を紹介しながら、ルポの書き方を講義。鍵言葉は現場・人間関係・誠意。ルポライターの6条件(277頁)は研究者にも妥当。

<「質的研究」全般の概説書・教科書>

キャロル・ガービッチ、上田礼子・他訳『保健医療職のための質的研究入門』医学書院, 2003. …質的データの収集、解釈、発表の方法論と技法について、主なものを公平かつ幅広く解説。

ウヴェ・フリック、小田博志・他訳『質的研究入門—〈人間の科学〉のための方法論』春秋社, 2002.

…「入門書」ではなく、高度でバランスのとれた概説書。日本版独自の解説と文献案内も充実。

キャサリン・ポープ他『質的研究実践ガイド—保健・医療サービス向上のために』医学書院, 2001.

…「量的研究を補完」する質的研究のもっとも分かりやすい入門書。

<「トライアングレーション」(複数の研究方法の統合)の研究書&研究方法についても詳述>

冷水豊編『「地域生活の質」に基づく高齢者ケアの推進—フォーマルケアとインフォーマルケアの新たな関係をめざして』有斐閣, 2009. …茅野市をフィールドに、多様な質的・量的研究方法を統合。

山崎喜比古・井上洋士編『薬害H I V感染被害者遺族の人生—当事者参加型リサーチから』東京大学出版会, 2008. …面接調査=質的研究と質問紙調査=量的研究をリンクした、当事者参加型研究。

7. 英語力をつけるための本・雑誌 (14冊)

警告:院生に必要なのは英会話力ではなく、英文読解力=速読&精読術!

<初学者向け>

和田秀樹『英語も要領—読める人、書ける人だけが上達する』幻冬舎, 2003. …読解力向上のコツ。

向山淳子・他『ビッグ・ファット・キャットの世界—簡単な英語の本』幻冬社, 2001. …「英語はとにかく、まず読むこと」を強調した明快な英文法書。初心者・中級者必読。ただし、「読むこと」≠和訳に注意(本学小泉教授より)。

<中・上級者向け>

関谷英里子『カリスマ同時通訳者が教える ビジネスパーソンの英単語帳ーたった60語でうまくいく』

ディスカバー, 2009. …tell, think→share、show→present等、ワンランク上の英語表現のヒント。

行方昭夫『英文の読み方』岩波新書, 2007. …「読む力が英語の基礎」という視点から、「英文に慣れ

るための多読に始まる5段階のステップを詳述。博士課程進学希望者は、第2ステップまで必読。

野口悠紀雄『「超」英語法』講談社, 2004. …研究者に必要な総合的英語力を身につける正統的勉強法。

話すことではなく聞くこと、分野ごとの専門用語を知ることがを強調し、具体的方法を伝授。

スティーブ・モリヤマ『英語の会議にみるみる強くなる本』中経出版, 2003. …文化の違いを理解して

「欧米人と話す技術」。英語で話す際のタブー（第4章。目を閉じて腕を組む等）は実用的。

澤井繁男『英文読解完全マニュアル』ちくま新書, 2002. …中級者向けの受験英語を生かす勉強法。

長部三郎『伝わる英語表現法』岩波新書, 2001. …「英語の構造」と日本語との違いを明確に示す。高

度の和文英訳能力をつけるために有用。

高橋祥友『英語力を身につける』講談社現代新書, 2001. …「本気で英語をものにしようと考えている

人向け」。第1章と第3章（速読）は有用。

松本道弘『[改定新版]速読の英語』プレジデント社, 1997. …上級者向き。「英会話の前にリーディ

ング」、「読視野を広げよう」は重要。

松本道弘『[改定新版]速聴の英語-聴けなければ話せない』プレジデント社, 1997. …同上。

石山輝夫『日本人に共通する英語のミスービジネス編』The Japan Times, 1991.

M・ピーターセン『続日本人の英語』岩波新書, 1990. …日本人の犯しやすい誤りを具体的に指摘。

M・ピーターセン『日本人の英語』岩波新書, 1988. …同上。

<参考:博士課程進学希望者向きーより進んだ「継続は力になる」雑誌>

- ・それぞれの分野の専門雑誌…先輩または指導（予定）教員に相談のこと。
- ・Newsweek or Time…英語総合週刊誌の双璧。ただし、「国際的」視点ではなく、アメリカの視点。
- ・The Economist…伝統ある経済中心の総合誌。上記2誌よりバランスがとれているが、英語は難しい。

(201. 4. 18~2011. 3. 17 謹製)

付録：研究についての名言クイズ28問 (2012年度版, ver. 5)

(「二木立の医療経済・政策学関連ニューズレター」=NL。すべて、いのちとくらし非営利・協同研究所のホームページに転載：<http://www.inhcc.org/jp/research/news/niki/>。●は今年度追加)

※4月13日の「統一導入講義」で用いるので、各自答えを考えておくこと。

○酒井邦嘉 (脳科学研究者) 「**【研究は】一に××、二に創造**」『どのように研究するか』は、言い換えれば××の段階である。そして、『何を研究するか』は、創造の段階に対応する」(『科学者という仕事』中公新書, 2006, 46頁。NLNo. 22)。

●利根川進 (分子生物学者。1987年ノーベル生理学・医学賞を受賞) 「よく科学者にはオリジナリティがなければいけないというでしょう。(中略) **大切なのは、オリジナルでかつ××××が高いことをやることです。**人がやっていないことなら何でもオリジナルで、だから研究する価値があると主張するのは間違いだと思いますね」(立花隆・利根川進『精神と物質—分子生物学はどこまで生命の謎を解けるか』文藝春秋, 1990, 90頁。NLNo. 92)。

○津山直一 (東大医学部教授) 「**無知な者ほどたくさんの××をする**」(NLNo. 11)。

○ある数学の先生「**私はたしかに専門バカだ。けれど君らは×××××だ**」(佐伯啓思『学問の力』NTT出版、2006、25頁。「学生運動の時代に、運動家の学生から『専門バカ』と呼ばれた」先生がこう言い返した「話もあります」と紹介。NLNo. 28)。

○ニーチェ「**××は嘘よりも危険な真理の敵である**」(ロバート・P・クリース『世界でもっとも美しい10の科学実験』日経BP社, 2006, 226頁より重引。NLNo. 30)。

○サルトル (フランスの実存主義哲学者) 「**理解するとは×××××ことであり、自己の彼方へ行くことである**」(『方法の問題』白水社, 1962, 26頁。NLNo. 48)。

○福岡伸一 (青山学院大学教授) 「**知的であることの最低条件は×××××が出来るかどうかということ**」(『生物と無生物とのあいだ』講談社現代新書, 2007, 67頁。NLNo. 37)

○メインランド (統計学者) 「**科学者は××を設け、しかる後にそれを打破しようとするが、非科学的な人々は××は設けるが、それを大切に保存しようとする**」(柏木力訳『医学統計の基礎』岩波書店, 1971, 12頁。NLNo. 9)。

○ドーキンス (イギリスの動物行動学者) 「**問いは適切に設定されねばならず、必要があれば×××××なければならない**」(垂水雄二訳『神は妄想である—宗教との決別』早川書房, 2007, 255, 257頁。NLNo. 39)

○モイニハン (アメリカ上院議員) 「**きみには自分の意見を持つ権利はあるが、自分勝手な××を持つ権利はない**」(バラク・オバマ著、棚橋志行訳『合衆国再生』ダイヤモンド社, 2007, 136頁。NLNo. 44)

○フックス (アメリカの医療経済学者) 「**同時期に研究者と××××××の兼業を試みるな**」(「医療経済学の将来」『医療経済研究』8:91-105, 2000。NLNo. 10, 11)。

○郷ひろみ（歌手）「Thought, action and ××××××××××.（考えること、行動すること、△△△こと）」（NHK総合TV2007年5月7日11:00-11:30pm「英語でしゃべらナイト」で、「人生で大切なこと」としてこの3つをあげた。NLNo. 34）。

○瀬古利彦（元マラソンランナー）「継続は力なり、されど××の継続は退歩なり」（『マラソンの真髓』ベースボールマガジン社, 2006, 215頁。佐山一郎氏が、「朝日新聞」2007年3月4日朝刊の同書書評で引用。NLNo. 32）。

●梅棹忠夫（民俗学者。2010年7月3日死去、90歳）「現地で、実物をみながら××××。わたしはまえから、これはひじょうにいい勉強法だとおもっている。」（小長谷有紀『梅棹忠夫のことば』河出書房新社, 2011, 8頁。NLNo. 84）。

○酒井邦嘉「科学的な研究とは、××が出ることをもって完成と考えなくてはならない」『科学者という仕事』中公新書, 2006, 155頁。NLNo. 22）。

○小笠原嘉康（日本大学教授）「レポート・論文を仕上げるというのは、『××××』である」（『インターネット完全活用編レポート・論文術』講談社現代新書, 2003, 165頁。NLNo. 36）。

○酒井聡樹（東北大学助教授）「論文を書くというのは、自分の主張を××××していく作業である」（『これから論文を書く若者のために 大改訂増補版』共立出版, 2006, 117頁。NLNo. 36）。

○キング（『アメリカ医師会雑誌（JAMA）』元編集長）「さらに研究すると言うのは書く作業から逃避するための××だ」（King LS: "Why not say it clearly?" Little, Brown and Company, 1978, p.103. NLNo. 36）。

●池田正行（長崎大学医歯薬総合研究科教授）「論文を書かないってことは、××されなくて済むってことだからね」「論文を書くということは、すなわち××されることにほかなりません」（「日経メディカル オンライン」2011年12月2日 (<http://medical.nikkeibp.co.jp>)。NLNo. 91）。

○ワトソン（分子生物学者）「××××に仕事をしたくない人は、科学者には向かない」（「毎日新聞」2008年11月4日朝刊「余録」。NLNo. 52）

●中澤正夫（代々木病院の精神科医）「『やりたいこと』は、仕事が一番××××ときにやれるのである。時間の問題ではなく、自分のテンションの問題だからであろう」（『七十路の修羅』萌文社, 2011, 4頁。NLNo. 81）。

○ハマトン（『知的生活』著者）「時間を空費させるもっとも大きな敵は、下手な××だ」（渡部昇一『知的生活の方法』講談社現代新書, 1976, 160頁。NLNo. 36）。

○フェックス「ハードに学べ、しかしもっと重要なのは××××に学ぶこと」（上掲論文。NLNo. 10）。

○山根一真（ノンフィクション作家）「オタクは××××を持たない趣味人のこと。××××を持って何かに没頭している人はプロフェッショナルと呼ぶんです」（「日本経済新聞」2008年11月20日夕刊「デジタル化する社会—山根一真さんに聞く」。NLNo. 53）。

○梅棹忠夫「いわゆる『××』ができないというのは、今日においては、研究能力がないというにひとしい。／研究とは、今日においてひとつの実務である」（『研究経営論』岩波書

店, 1989, 191-192頁。NLNo. 13)。

●**アン・モロウ・リンドバーグ**（作家。大西洋単独横断飛行に成功したリンドバーグ大佐の夫人）「**××××いる時間は、一生のうちでもきわめて重要な時間である。ある種の原動力は、わたしたちが××××いる時にだけ湧いてくる**」（落合恵子訳『海からの贈りもの』立風書房, 1994, 50頁。NLNo. 87）

●**西村周三**（国立社会保障・人口問題研究所長。医療経済学）「**どの分野を学ぶにしても、自分の研究の『立ち位置』を決めるために、最低限の幅広い××を必要というのが、長い研究生活から得られた教訓である**」（『週刊社会保障』2011年10月3号：61頁「社会保障と医療経済学」。NLNo. 89）。

<オマケ>

○**江見康一**（一橋大学名誉教授。86歳）「『**かきくけこ**』（**感動・興味・工夫・健康・××**）が**若さの秘訣**—ある時、東大名誉教授と話をしました。『江見さんの若さの秘訣はなんだ』と聞くので、『かきくけこ、だ』と言いました。感動、興味、工夫、健康と言って、『こ』は何かと逆に尋ねてみた。そうしたら『根性だろう』と言った。きまじめな答えです。しかし**人間は幾つになっても××を忘れたらいけません**」（『世界日報』2007年3月4日。NLNo. 32）。